

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------------|----|-----------|
| ○事業所名 | ふれんず広田町 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年11月1日 ~ 令和7年11月30日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 29 | (回答者数) 22 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年11月1日 ~ 令和7年11月30日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9 | (回答者数) 9 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月1日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 活動内容が充実しています。 | 月一回支援プログラムを職員で集まり会議を行っています。また活動種別毎に担当を決めており、定期的に担当を変更することにより、子どもたちに飽きのこない活動を提案し、スキルアップに繋げています。特に土曜日、長期休みには送迎車を使用し、市外、県外の様々な施設の見学に行っております。 | 子どもたちや保護者様からもご希望を伺い、満足度の高い活動を目指して参ります。 |
| 2 | 運動療育に力を入れています。 | 普段からトランポリン、ボレーボール等多数の運動アイテムを使用し療育を行っています。 | ただ単に運動をしているだけであると、子どもたちも飽きてしまうので目標と一緒に考えたり、競い合ったり、運動に付加価値をつけて遊びを提案して参ります。 |
| 3 | 子どもたちが自分の行動に安心感をもって、チャレンジができる環境が整っています。 | 活動の中で自己選択できる状況、環境が整っています。自分が苦手なことがあるわけではなく、周りの友だちも苦手なところがあるからこそ、孤立感なくチャレンジ精神が養える環境にしています。 | 友だとの関わりを増やしていく中で、友だち同士で成功を共感しあえる、成功体験を増やしていきます。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 児童の導線に合わせた環境になっていないため、児童による自主的な行動を促すことが難しい場合があり、必要以上に声かけをしなければいけない状態であります。 | 洗面所が一番奥にあり、手前に玩具が置かれている状況の為、子どもたちの視界の先に玩具が先に目に入り遊びが始まってしまいます。 | 事業所での身辺整理に慣れるまでは、言葉かけだけではなく、矢印や、数字を入れ視覚支援の充実を行って参ります。 |
| 2 | ワンフロアな為に、感覚過敏な児童や、クールダウンが必要な際に、居心地の良い空間提供が困難な場合があります。 | クールダウンが必要な際は職員が一人寄りそうようにしていますが、周りが騒がしい時もあり、クールダウンに時間がかかってしまうことがあります。 | イヤーマフ、パーテーションを使い、できる限り居心地の良い空間の提供をいたします。 |
| 3 | 学習支援は環境状弱みにあたります。 | ワンフロアな為に遊びと学習の共存状態で、学習に集中しにくい環境です。 | イヤーマフ、パーテーションを使い集中できる環境を整えていきます。また、低学年には利用人数が全員が揃う前の比較的静かな時間に学習を行うことを促し、学習習慣の定着を促して参ります |